

第3回学校評議委員会

日 時 令和7年2月13日(木) 15:30～16:30

場 所 日野第一中学校会議室1

出席者 松岡敬明 谷和彦 三浦寛朗 伊野直美 池田恵美子 下田圭子 篠原仁美 安西功夫
和田栄治 木村孝治 緒方翔太 宮崎太樹 加藤裕保 桶田大樹

欠席者 小川 真由美 山本剛秀

1 校長挨拶

和田…今日の議題は現状の説明と学校重点計画についての2つをメインに話をしていきたいと思います。来年度はこの会をコミュニティ・スクールとして進めていくので、よろしくお願いします。

2 学校の様子について

2 学校の様子について

桶田：一年が終わろうとしておりますが、学習面運動面に両方に意欲的に頑張ることができた一中生でした。しかし生活指導が全くないわけではありませんでした。ICTの活用が進んでいる学校なのでChromebookの使い方というところで複数出てきました。授業中にドキュメントを共有して会話して楽しんだり、写真を撮ってg-mailで自分のスマホに送るという事案が発生しました。使い方を制限するよりは、より良い使用の仕方を生徒に考えさせていきたいと思っています。また、闇バイトの勧誘があったという報告もあり、今調べている状況です。いじめについては昨年度より件数が減っています。数が減っていることが良いというわけではなく、今後もアンテナ高く対応していきたいと思っています。不登校の生徒数も減っているところですが、次年度のほっとルーム教室の開室が減ってしまうので、様々な対応をしていきたいと思っています。

加藤：一年間を通して、単元テストを実施したことが一番の変化だったと思います。実施当初は元の定期テストに戻してほしいという声も多かったのですが、最近はこの形に慣れ、不満も減ってきていると感じています。従来の定期テストから良い意味での脱却ができていると思います。主体的に学びに向かう態度についての研究を一年間行ってきました。もう一年研究する時間があるので研鑽を積み、より良い評価につなげていきたいと思っています。

宮崎：先日、道徳地区公開講座を実施しました。不登校に関する講話を実施し、保護者の方も多く参加し良い機会となりました。2年生が校外学習についてポスターを作成しているので、それを全学年に紹介していく予定です。Aigrowを年間通して定期的の実施しました。2, 3年生は決断力のコンピテンシーが伸びている状況です。3年生の進学指導が大詰めを迎えています。私立推薦入試、都立推薦入試が終わりましたが、都立推薦入試の合格者が60%ととても素晴らしい結果が出ています。

3 学校評価について 副校長から資料について説明

木村： 体を育てる力の向上については、生徒学校評価アンケート「運動を頑張り、体が強くなった。」という質問項目に対し、76.3%の生徒が「とてもそう思う」、「そう思う」と回

答しています。今年度は学校としての取り組みを行うことができませんでしたが、放課後に10分間走などを行い、部活動に参加して運動を頑張る生徒はもちろんのこと、運動部に入っていない生徒にも体力向上の機会を設けていきたいと考えています。

学ぶ力の定着（授業改善）については、生徒学校評価アンケート「授業の内容がよく分かる。」という質問項目に対し、生徒の84.1%が肯定的な回答をしています。校内研修では、都の授業改善推進拠点校の指定を受け、主体的に学習に取り組む態度の指導方法と評価方法についての研修を行いました。また、定期テストを単元テストに改め、テスト問題の事前提出・評価提出時の面談を行い質の向上に努めました。生徒と教員の指標ともに向上しています。これは評価の具体的な方法が分かって来たことによると思われます。保護者に関しては、評価の取組みなどに分かりづらい部分があったと考えられます。知識偏重の学習ではなく、単元ごとに学習の定着を単元テストで確認し、定着していない箇所をより明確にし、振り返ってできていない部分を取り組んでいくことで学力が定着できるように伝えていきます。そうすることで、保護者からのクレームをなくすようにしていきます。

豊かな人間性の育成（運動会・合唱コン）については、生徒学校評価アンケート「運動会・合唱コンクール等の行事に参加し所属感・連帯感が高まった。」という質問項目に対し、93.4%の生徒が肯定的な回答をしました。今年度の運動会は、運動会を短時間で開催したため種目を精選し、色別に分かれた団ごとに応援発表や学年種目、大縄跳びなどを取り入れることで、生徒同士が協力して取り組む活動が多くみられたことが一因として考えられます。また、生徒会種目では、教員も参加してパフォーマンスに加わるなど生徒・教員の連帯感が感じられました。

昨年の合唱コンクールは3月に延期されましたが、今年度は予定どおり10月に行われこともアンケート結果に反映されたと考えます。

豊かな人間性の育成（人間性の測定等）については、人間性が向上と感じた生徒は89.2%でした。生徒会で全生徒からアンケートを取り、人間性を高める重点行動5つを決めて取り組みました。

人間性については数値で測りづらく、非認知能力と言われ、学力以上に社会での成功に重要な力と言われています。コミュニケーション能力や粘り強さ等の非認知能力を、AiGROWという評価ツールを使って測定をしました。生徒は、自己の強味や伸ばしたい力を捉え、成長につなげました。結果個票を通知表に入れて家庭に報告し、通知表の成績偏重の意識改善に役立てました。

非認知能力は、学力の3要素のうちの「学びに向かう力、人間性等」と同じであり、各教科の授業では、そのうち「主体的に学習に取り組む態度」を育てることになっていますが、その授業と評価が分かりにくいと、研修を進めてきました。

主体的に学習に取り組む態度とは、授業でできたこととできなかったことと、その理由を分析して今後の方策を見いだすことで養われることが分かってきました。つまり、自己調整をすることが大切になります。7年度は、自己調整力に加え、粘り強さを向上させる実践を行い、学力向上を推進していきます。

豊かな人間性の育成（地域との交流）については、生徒学校評価アンケート「地域の方と交流を行い、自分の成長につながった。」という質問項目に対し、76.9%の生徒が肯定的な回答をしました。昨年度より12ポイント上がっています。これは職場体験や職場訪問の発表

会に事業所の方にも参加していただき、質疑応答を行うなど、交流の場を設けたことが肯定的な回答が増えたことの要因として考えられます。引き続き職場体験の報告会を保護者や地域の方にも参加してもらい実施していきたいと思います。商工会や青年会議所をはじめ、地域との交流を深めながら職場訪問につなげるなど、地域との交流の場が増えるようにしていきます。

豊かな人間性の育成（防災）については、生徒学校評価アンケート「避難訓練などの取組を通して、自助・共助の意識が高まった。」という質問項目に対し、88.6%の生徒が肯定的な回答をしました。今年度の避難訓練においては、指示されたとおりに動く訓練だけではなく、休み時間に発生した地震など、状況に応じて各自で判断して動く訓練を多く実施したことに加え、スタントマンによる自転車安全教室を行ったことが、多くの生徒が高まったと回答したと考えられます。地域での訓練では小中合同での引き取り訓練を実施しましたが、地域の方との協働での避難訓練は生徒数も多く実施できませんでした。防災の観点から中学生がいざというときにどのように行動したらよいのかを小中合同訓練などで行える機会を模索していきます。

豊かな人間性の育成（不登校）については、生徒学校評価アンケート「ステップ教室等や保健室、登校支援教室等の相談など、個別の支援が充実していると感じた。」という質問項目に対し、83.0%の生徒が肯定的な回答をしました。教育相談部会を毎週開催し、不登校傾向にある生徒等について、情報交換、共通理解を図り対応を進めました。対応にあたっては、教員だけでなく、SC、SSWとも連携を図ったことも生徒が肯定的な回答をしたことにつながったと考えます。

今年度は教室になかなか入れない生徒、不登校の生徒に対し居場所としてほっとルームを開設し、校内別室支援員による支援を行うことができました。また、登校支援教室は水、金と今年度は2日間行うことができました。こちらには校内別室指導支援員の他、スクールカウンセラーインターン、ステップ教室の教員などが関わり、学習支援や栽培活動などを行いました。基本的に各自が思い思いに支援教室での時間を過ごしています。お互いに教え合ったりしながら交流を他学年とももつことができ、それぞれの成長につながっています。教室に入れるようになった生徒も2,3名おり、効果が表れてきています。

来年度は校内別室指導員の配置がなくなり、代わりに、リソースルームティーチャーが学習指導の効率化を図り、ほっとルームの見守りを行っていくことになります。

安全、安心の推進については、生徒学校評価アンケート「先生方は「いじめ」や人間関係のトラブル等、悩みや相談に親身になって応じている。」という質問項目に対し、85.6%の生徒が肯定的な回答をしました。これは毎月生活アンケートを実施し、困っている状況にある生徒に対し、聞き取り、指導を行っていることや、生徒相談フォームを開設し、タブレットを使い常時生徒が相談できる環境を設けていることが、先生方が親身になって相談に応じていると感じていることにつながったと考えられます。今後も継続していきます。

下田：Aigrow とは何ですか？

宮崎：IGS という会社が運営し評価しています。自己と他者が相互評価し、AI がそれを受けて評価を出しています。非認知能力は自分では気づきにくい部分なので、そこを客観的に見せてくれるので自分の気質を理解しやすくなっています。

谷：避難訓練への地域の方のお誘いをしても良いのではないのでしょうか？地域の自治体の方と一緒に給食を食べてみたり、避難訓練にお呼びするなどできる範囲で構わないので地域との連携を模索してもらいたいと思います。

4 令和7年度コミュニティ・スクール（学校運営協議会委員）について

校長：コミュニティ・スクールには学校運営協議会という会議体が必要です。また、その委員に、地域コーディネーターという方が入ります。職場体験の際に事業所を探してもらうなど、学校ととの橋渡しなどをしてもらうようなイメージです。また、学校経営方針を承認してもらうこともあります。来年度は今年度の学校評議員会と同じ回数でスタートしていきたいと考えています。例年は市から委嘱状を送ってもらっているのですが、3月中に委員会に名簿を送らなければいけません。そのため原案として今年度の評議員の方の名前を入れて名簿を作成しました。今年度の委員の方々にやってもらうと大変助かります。

松岡：学校運営協議会の委員に学校の教員の名前が入っているのはおかしいと思います。市の要項が間違っているのではありませんか？学校運営協議会は、学校の人事について意見を言うことができることになっているのに、教員がその意見を言うことができるのはおかしいと思います。

校長：本来はそうなのですが日野市学校運営協議会規則に教員が含まれています。

安西：自治会長の任期が1年なので複数年度に跨っては厳しいと思います。自治会によって任期は違いますが。

下田：小学校と中学校に違いはありますか？

校長：コミュニティ・スクールの運営に違いはありません。

下田：学校によってコミュニティ・スクールの運営の仕方が違うと思います。仲田小学校が今年度始めているが手探り状態なので、一中は一中らしく運営してほしいと思います。

校長：急で申し訳ないのですが、会長と地域コーディネーターを選ばせてもらいたいと思います。

伊野：会長は谷さんが良いと思います。

伊野：地域コーディネーターは私がやります。

校長：ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

5 その他

谷：今年度様々な協議に感謝しております。昔、一中は荒れていましたが今は本当に良い学校になりました。これからもよろしくお願いします。学識経験者として松岡さんよろしくお願いします。

配布資料

学校便り5号～6号

学校経営重点計画 自己評価シート

卒業式案内

学校運営協議会委員名簿（案）